

2019年10月23日

平成31年度第2回 海岸工学委員会委員会議事録

開催日時：平成31年10月23日（水）18:00～20:40

開催場所：かごしま県民交流センター3F 大研修室第1

出席者：後藤委員長，佐々木副委員長，田島幹事長，荒木，有川，内山，川崎，北野，桑江，森（各小委員長），遠藤，小竹，山城，（各副小委員長），伊藤，入江，岩前，榎田，太田，岡田，柿沼，加藤茂，加藤史訓，嶋原，鈴木，瀬戸口，津田，坪野，富田，中下（日比野代理），中嶋，信岡，原田，伴野（高川代理），古市（山本代理），宮武，松本，山中，横木，渡辺一也，渡辺国広（佐々木代理），渡部（以上，各委員），林（土木学会事務局）

議事録：遠藤，田島

資料：

- ・ 2019年度第2回海岸工学委員会議事次第（資料1）
- ・ PowerPoint資料（資料2）

審議報告事項：

- ・ 前回議事録の確認：WEB公開済の議事録を確認した。

1. 海岸工学論文集第66巻発刊準備状況について（森編集小委員長，山城副小委員長）

(1) 最終審査報告

- ・ 登録論文数：321編
第1段審査通過論文数：273編（企画セッションはなし。17点以上：263編，16点で2点以下がないもの：10編）
第2段審査通過論文数：266編（CEJ投稿予定28編含む。不採択5編，辞退2編）
第2段審査以降通過論文数：256編（CEJ投稿22編含む。不採択3編，辞退1編，CEJ未投稿編）
※海岸工学講演会での講演数：257（234（一般）+0（企画論文）+22（CEJ投稿）+1（通常号））
- ・ 第2段審査辞退論文内訳
合計3編（第2段審査原稿提出時：2編（家庭の事情，所属が変わり執筆意思の喪失*），審査・再審査時：1編（国の業務内容で著作権上の問題があった））
*：該当者は外国人で，投稿規定（日本語）を認識していなかった可能性があったことから，英文の投稿規定を充実する。
- ・ 取り下げ手続き
3編とも著者全員の自筆署名の文章提出済。CEJ未登録（6編）についてはとり下げ手続きなし。

(2) J-Stageに関する作業

- ・ Author+から最終原稿PDFを組版業者（大應印刷）に提出。
- ・ 組版業者（大應印刷）に論文フォーマットのチェックを依頼
著しくフォーマットの逸脱した原稿（著者負担組版行き原稿）：1編
著者が対応可能な修正が必要な原稿：47編（題目変更，著者順変更，著者名，受付日の誤りなど）
- ・ 論文査読～J-Stage 掲載作業までの日程について：講演会の日程に合わせ，例年に比べ20日程度前倒し

(3) 論文集編集の現状・検討課題

- ・ 最終原稿 PDF アップロード Author+ の運用 4 年目
- ・ 最終 PDF の様々なゆらぎ：減少傾向だったが今年度は多数あり
- ・ 英文論文（全文査読）の募集を継続（投稿数 10（9），採択数 10（8））（）は昨年
- ・ その他
題目・著者変更ルールについての確認・周知：依然として複数の問い合わせあり→Web の FAQ を参照
- ・ 最終判定の明確化・カテゴリー
A)受理：そのまま掲載可．校正上の修正以外は求めない
B)受理：微修正．校正上のやや大きな修正および D 判定に関わらない程度の修正．主査が再度チェックする必要あり
C)再査読．D 判定の可能性のあるものとして判定
D)却下
- ・ 主査判定のガイドライン
C 判定とする場合

ケース 1)：再査読で D の可能性がある判定の場合

- cec@jsce.or.jp まで主査報告書を添付して連絡．cec（委員長・副委員長・幹事長・論文編集小委員長）
- C 判定の妥当性の確認と承認
- 判定理由の文面を丁寧に作成

ケース 2)：念の為再査読で確認したい程度の場合

- 基本的に連絡の必要なし
- C 判定の妥当性の確認と承認
- 判定理由の文面を丁寧に作成

判定書の書き方

- 主査報告の「判定理由」で最低限クリアすべき項目・対応を具体的に明記．
- クリアすべき項目・対応が対応できない場合は，D 判定の可能性もあることも最後に明記．

C/D 判定の主査報告の書き方：次の例のように，何に対応する必要があるのかを対応事項は具体的に記載する．

例：判定理由

本原稿は，工学的に重要な知見を含んでおり，海岸工学論文集に適した目的・解析が行われていますが，いくつか重要な指摘・修正事項がありますので修正してください．修正原稿にもとづき掲載可・棄却の判定を行います．修正あたり，以下の点に留意して慎重かつ丁寧に修正を行ってください．

- 査読者 A の指摘事項 1),3),5)には必ず対応してください．
- 査読者 B の指摘事項についてはすべての事項に必ず対応してください．
- 査読者 C の指摘事項 2), 5)には必ず対応してください．3)は査読者の誤解に基づく指摘ですので無視してください．
- その他の事項に関しては，著者の判断にお任せします．

D 判定とする場合（その 1）

D 判定とする場合

- cec@jsce.or.jp まで主査報告書を添付して連絡．D 判定の妥当性の確認と承認．
- 主査報告の「判定理由」で最低限クリアすべき項目・対応を具体的に明記（できるだけ次に繋がるような文章で）

査読者間で判定が一致している場合

- 投稿者が D 判定であることを理解しやすいように、論文のクオリティとして不足している点等について判定理由を明確に書く。
- 全ての査読者の意見の詳細も掲載。原稿作成・投稿時に気をつけてほしい点を明確することが、次回以降の原稿のクオリティ向上につながる。

判定が割れている場合

- 判定が B,C,D と分かれるような場合、できるだけひと手間かけてでも C 判定とし、著者に対応の機会を与える。
- 上記の条件で C 判定とする場合、主査は「判定理由」に個々の査読意見をもとに最終的な対応について主査コメントを明記。

D 判定とする場合（その2）

- 研究のオリジナリティ等のグレイゾーンの論文については判断の難しい論文は、他の査読結果と俯瞰してチェックするため、cec@jsce.or.jp まで報告すること。

・ 査読の現状

- 「第2段審査査読報告書登録締切：5/31」と「第2段審査査読報告総括登録締切：6/7」の期間が短い。
- 査読入力ミスが数件ある
 - システムに入力後、「確認」ボタンの押し忘れ
 - 査読者評価（点数入力）に論文 ID の数字を入力
 - 評価の合計点や判定の入力ミス
 - 別の論文に対する主査報告総括を登録
 - システムに入力した判定と主査報告の判定が異なる
- 最終原稿にフォーマットのミスが多い
 - 対応策として、査読総括報告にフォーマットのチェック欄を加える

・ CEJ 投稿予定論文の昨年度は 13 編、今年度は 28 編

・ 負担金は 35,000 円、CEJ は 20,000 円

・ J-stage XML 化対応：北大生協が対応。

・ J-stage 討議集：有料 1 万 5 千円

・ 通常号は Word 自動組版ツールのサービスが 2020 年度で終了。

・ 副小委員長の交代

- 山城副小委員長が任期に伴い、鈴木委員が副小委員長に就任。

・ 質疑

- 査読者は、投稿論文の内容が海岸工学分野との関連性が低いと判断する際には、注意した方がよいという意見があり、ジャンルが違っていると判断する場合は、cec に報告することとした。
 - 外部査読が必要な場合は、その制度作りから検討する必要があるがすぐに対応できる課題ではない。

2. 海岸工学論文賞および同論文奨励賞について（田島幹事長）

- ・ 海岸工学論文賞は査読の得点に基づき選定した 9 篇の候補論文を 5 人の審査員により審査し、以下の 3 編が受賞することとなった。
- ・ 海岸工学論文奨励賞は査読の得点に基づき選定した 4 編の候補論文を 5 人の審査員により審査し、以下の 3 編の第一著者が受賞することとなった
- ・ 海岸工学論文賞

題目：海底地滑りによる津波の発生と地滑り諸元に関する理論解析

著者：由比政年・山本朗宜・木場正信・上野卓也

題目：関西国際空港における台風 201821 号による浸水要因と浸水状況の再現

著者：伊藤康佑・片木聖樹・水上純一・熊谷健蔵

題目：静止海色衛星による硫黄の光学特性に基づいた青潮分布推定手法の開発

著者：比嘉紘士・中村航・管原庄吾・中村由行・鈴木崇之

・ 海岸工学論文奨励賞

題目：地震・津波複合災害に対するアーマレビー型海岸堤防の耐災害性に関する基礎的検討

筆頭著者：上野瑞樹（共著：二瓶泰雄）

題目：指宿港海岸における温泉地下水の熱輸送を含めた浸透流解析モデルの構築

筆頭著者：笠毛健生（共著者：小野信幸・三宅崇智・雪丸敏昭・甲斐信治・浅野敏之）

題目：大規模アンサンブル気候予測データ（d4PDF）を用いた全球確率台風モデルの開発

筆頭著者：梅田尋慈（共著者：中條壮大・森信人）

3. 第 66 回海岸工学講演会シンポジウムについて（桑江小委員長）

- ・ 下記の要領で、無事終了したことが報告された。（参加者数は 191 名）

日時：2019 年 10 月 23 日（水）15:00～16:30

場所：かごしま県民交流センター 県民ホール

テーマ：『沿岸域の気候変動研究 -これまでとこれから-』

プログラム：

- (1) 各省庁の温暖化研究プロジェクトの動向
- (2) 今後の気候変動対応で解決すべき課題に関する、沿岸分野各学会へのアンケート結果
- (3) 招待講演（国交省）
- (4) 総合討論

4. 第 66 回海岸工学講演会特別講演会（招待講演）について（田島幹事長）

- ・ 下記要領で、無事終了したことが報告された。（参加者数は 163 名）

日時：2019 年 10 月 23 日（水）16:45～17:50

場所：かごしま県民交流センター 県民ホール

テーマ：『Tsunami-Induced Coastal Currents』

Prof. Patrick J. Lynett, Dept. of Civil & Env. Eng., Univ. of Southern California

司会：田中仁

5. 第 66 回海岸工学講演会の実施状況について（柿沼委員）

実行委員：柿沼（実行委員長）、齋田、長山（鹿児島大学）、辻本（熊本大学）、村上（宮崎大学）、山城（九州大学）、瀬戸口（八千代エンジニアリング）、浅野（顧問）

日程：2019 年 10 月 23 日（水）～10 月 25 日（金）

会場：かごしま県民交流センター

後援：国土交通省九州地方整備局、鹿児島県

懇親会：2019 年 10 月 24 日（木）、城山ホテル鹿児島、会費：7,000 円

- ・ 委員会時点の参加者数：講演会（記帳数 410 名）、シンポジウム（記帳数：191）、特別講演（記帳数 135）

※講演会の最終的な記帳者数は 578 名

6. 第 67 回海岸工学講演会について（北野実行委員）

実行委員：水谷（実行委員長）、東海地方の教員

日 程：2020 年 11 月 11 日（水）～11 月 13 日（金）

会 場：じゅうろくプラザ，（不足分は岐阜大学サテライトキャンパス）

見学会：2020 年 11 月 10 日（火）調整中

名古屋港コース：名古屋港見学（乗船）

長良川河口堰コース：長良川河口堰，輪中，排水機場（犀川）

懇親会：2019 年 11 月 12 日（木）18:30～20:30. 岐阜ワシントンホテルプラザスカイルーム

・ 第 68 回海岸工学講演会は京都で APAC 同時開催

7. 第 55 回水工学に関する夏季研修会（B コース）について（富田幹事）

主 催：公益社団法人 土木学会（担当：海岸工学委員会，水工学委員会）

後 援：土木学会中部支部

日 程：2019 年 9 月 9 日（月）～9 月 10 日（火）の 2 日間（A，B コース並行開催）

場 所：名古屋工業大学

参加者数（暫定）：A コース：98 名，B コース：74 名，合計 172 名

収 支：大きな黒字・赤字なし。講師に講演謝金 15,000 円，原稿料 25,000 円。

プログラム（B コース）：伊勢湾台風 60 年：高潮・高波・沿岸防災の過去・現在そして将来

9 月 9 日（月）

① 力学的ダウンスケーリングによる台風ハザードの気候変動影響評価【共】京都大学 竹見哲也

② スーパー伊勢湾台風来襲に備えた危機管理行動計画策定に向けた取り組み

【共】中部地方整備局河川部 松尾 修

③ 愛知県における高潮防災の取り組み 愛知県建設局河川課 益田 俊

④ 高波及びうねりによる越波災害と技術的対応 港湾空港技術研究所 平山克也

9 月 10 日（火）

⑤ 水災害に備える市街地のあり方【共】東京大学 加藤孝明

⑥ 災害ごみの最新の知見とその対策【共】名古屋大学 平山修久

⑦ 高潮数値モデルの開発と気候変動影響評価への適用 関西大学 安田誠宏

⑧ 伊勢湾台風とその後の防災 名古屋工業大学 喜岡 涉

・ アンケート（回答数：111）

- 民間の参加が多い。

- WEB，教員，知人に聞いたが多い。

- ほぼ全員が参加に満足。90%以上で今後も参加したいとの意見があった。

- テキストの事前配布や電子化や台風への対応（告知）をしてほしいとの意見があった。

8. 第 56 回水工学に関する夏季研修会（山中委員）

主 催：公益社団法人 土木学会（担当：水工学委員会，海岸工学委員会）

後 援：土木学会四国支部

日 程：2020 年 8 月 27 日[木]，28 日[金]，2 日間（A，B コース並行開催）

場 所：高知県高知市商工会館 光の間，寿の間（高知市本町 1 丁目 6-24）

共通テーマ：調整中

プログラム：調整中

担当者：海岸工学委員会 山中亮一（徳島大学）

水工学委員会 張浩（高知大学），岡田将治（高知工業高等専門学校）

・ 次回は，関東が担当

9. Coastal engineering Journal について (内山 CEJ 小委員長)

- ・ 小委員長交代に伴い、委員を刷新。
小委員長：内山、副小委員長：有働
委員：下園，Suppasri，田島，高木，田村；原田，日比野，今井，加藤，木原，三井，陸田，織田，鈴木，高川，三戸部 (下線は 2019 年度から)
- ・ 2018 年の Impact Factor : 2.016. 5year Impact Factor : 1 点台半ば.
- ・ CEJ Editorial Board
Editorial manager の最適化を検討中.
- ・ 出版状況
 - 2019 年 Vol. 61, No. 1 (March)
SI: SPH for Coastal and Ocean Engineering (Eds: H.Gotoh & A. Khayyer ed.) : 7 編出版
 - Vol. 61, No. 2 : 10 編出版
 - Vol. 61, No. 3 : 9 編出版
 - SI: Tsunamis in Latin American Countries (Eds: Erick Mas & Shunichi Koshimura)
 - アブストラクト投稿 23 編，アブストラクト採択 18 編，投稿 10 編 (査読中)
 - Special Issue of Blue Carbon Engineering (2021 年出版予定)
 - Guest Editors: Tomohiro Kuwae, and Stephen Crooks
 - Abstracts Due: 1st September, 2019→delayed. Full paper Due: 1st May, 2020. 投稿数が少なく，グリーンインフラも追加したプロモーションを検討中.
- ・ 2019 年度の投稿数 : 85 編で例年と比べると少ない。(2019 年 10 月 22 日現在)
 - 欧米から少なく，中国インドが多いので，欧米の投稿数を増やすことを目指す.
- ・ 海岸工学論文免除に関する投稿
投稿予定数 (1 次査読通過) : 28 編
投稿済み : 22 編 (うち既投稿のもの 3 編)
EiC 返却 : 10 編，査読中 : 9 編，採択済み : 3 編
後日再投稿 : 2 編 (Editor 返却 1 + 査読 1)
 - 海講 2 次原稿と同じ 7 月 25 日締切
 - EiC によるスクリーニング : 約 5 日
 - Latin Tsunami SI (10 編投稿) 締切日 : 8 月 14 日
- ・ 2019 年海講本論文免除に関する投稿 (2)
 - EiC 返却 : 10 編，Editor 返却 1 編・・・返却率 50%
 - 剽窃，短すぎ (200 行 : 400~600 行が一般的)，英語の問題，新規性不足.
 - 英文表現を含め，ジャーナル論文のセミナーの開催を検討予定.
- ・ 印税について (田島幹事長)
 - 売り上げの 10% (80~90 万程度) が土木学会を通じて海岸工学委員会へ振り込まれる.
 - 印税の活用方法については，proof reading のための費用など，執行部および CEJ 小委員会とで検討を進める。ただし，2019 年度については時間の制約もあるため，執行部で CEJ の投稿促進につながる活用方法を検討する.

10. 常設委員会の報告 (広報・出版，沿岸域連携)

- ・ 広報・出版 (荒木小委員長)
 - メンバー (2019 年度体制)
荒木 (小委員長)，安田 (副小委員長)，北野，田島，山城，Bricker，中村，渡邊，川崎 (顧問)

- WEB 情報の充実.
 - 海岸工学関連の本の紹介：2019 年 3 月に、第 16 回目を公開
 - 災害 DB の順次補充：2018 年台風 21 号 Jebi による沿岸災害
 - 海岸工学委員会のロゴ決定
- プログラム・DVD の状況
 - 冊子広告枠：2019 年は 3 件。例年より減少.
 - 後藤委員長：広告数を上げるため、委員から企業への周知依頼があった.
- 新ホームページのスケジュール（川崎委員）
 - 本委員会で移行予定だったが 2 か月ほど遅れている。11 月には完全移行予定.
 - セキュリティが高い、https に変更.
 - word press 編集マニュアルは整備済。ID、PASS は委員統一.
 - HP デザインを数パターンを用意し、後日、メール審議で決定.
- ・ 沿岸域連携（川崎小委員長）
 - 活動報告
 - 土木学会関西支部
 - 日時：2019 年 8 月 29 日（木）13:30～16:30
 - 場所：大阪市立大学文化交流センター
 - 内容：「比較沿岸環境工学に基づく今後の大阪湾研究に関する調査研究委員会講習会」
 - 沿岸環境関連学会連絡協議会ジョイントシンポジウム
 - 日時：2020 年 1 月 11 日（土）10:00～17:30
 - 場所：東京海洋大学品川キャンパス
 - 内容：「沿岸分野の各学会における気候変動対応：学会間のトレードオフとシナジー効果を明らかにする」
 - ※沿岸域の気候変動影響評価・適応検討に関する小委員会・桑江小委員長（港湾空港技術研究所）と連携
- ・ 研究小委員会の活動について（津波，減災アセスメント，地盤材料，気候変動）
 - 津波委員会：津波解析ハッカソン in 小豆島の HP が立ち上がり，案内があった.
 - 事前配布の回覧で確認。意見があれば，要連絡.
 - 来年度の予算について 11 月中を目途に，各小委員会で必要な予算があれば幹事長へ連絡.

11. その他（後方・出版，沿岸域連携）

- ・ APAC（田島幹事長）
 - APAC2019 (9.25～27 in Hanoi) (Proc.205 編(Springer))の報告があった。三カ国の参加者数：日本 84，中国 58，韓国 23
 - JSCE からの APAC の Council を 2 名から 3 名に変更。国際化を鑑み 3 番目の枠は JSCE との関係が深い非日本人を指名。人選は執行部（+関係各位）に一任することとした.
 - 次回（2021 年 11 月 9 日開催）は，京都テルサにて海岸工学講演会と同時開催.
- ・ CCES Joint Symposium of Civil Engineering（北野幹事）
 - 水工での状況を確認中
- ・ ICCE2024（田島幹事長）
 - 1966 年の東京（10th）・1994 年の神戸（24th）に続く 3 回目の日本での ICCE を仙台に招致すべく WG を設置.

- メンバー：田中，今村，越村，有働，佐藤，栗山，岡安，渡部，森，田島，木原，澁谷，伴野，志村
- 進捗状況：2019年4月16日，9月17日に打ち合わせを実施．誘致資料の作成．・若手の交流を促進するイベントの企画．Lynett 教授の招待講演&打ち合わせ．
- ・ 2019年台風15号，19号災害調査について（田島幹事長）
 - 台風15号調査団
メンバー（五十音順）：有川・鳴原・柴山・下園・鈴木（高）・鈴木（崇）・高木・田島
調査範囲：東京湾西岸
 - 台風19号調査団
メンバー（五十音順）：有川・織田・熊谷・佐々木・鳴原・志村・下園・鈴木（崇）・高木・田島・富田・中村(友)・信岡・福谷・宮下・森・八木
調査範囲：駿河湾，相模湾，東京湾・千葉外房
 - 報告会の開催とCEJ（台風15：鈴木（崇），台風19号：下園）での報告．
- ・ 令和元年度の委員会予算について
 - 前年度からの繰越により，予算に余裕がある．
 - HP更新（70万円）に加え，データベースと査読システムの更新に活用する．
- ・ 海岸工学講演会・特集号の今後の方針について
検討WGによる検討内容，および，これまでの議論を再確認した後，活発な海岸工学講演会(参加者数を含む)の維持と，特集号論文集の質の確保，CEJへの投稿促進，その他の英文SCIジャーナルへの投稿との両立などの課題を踏まえながら今後の方針を議論した．議論の結果，2020年度の方針を以下の様に決定した．
 - ① CEJについては，特集号最終原稿の提出期限までに投稿していれば，特集号論文の執筆無しでの講演会での発表を認める．(2019年度と同じ)
 - ② CEJ以外のSCIジャーナルについては，特集号要旨投稿時までに採択された論文については，特集号論文の執筆無しでの講演会での発表を認める．
 また，CEJに投稿した論文が不採択となった場合に特集号に再投稿できる仕組みの是非についても検討されたが，2020年度は実施せず，投稿状況を見ながら議論を継続することとした．また，論文投稿とは別に，講演会への参加者数を増やしていくための方策についても継続して議論することとした．